

## 令和6年度学位記授与式 学長式辞

愛媛大学長 仁科 弘重

最近は、3月が、温かい「春」というより、冬の寒さと夏の暑さが交互に現れ、体調管理が難しい時期となりました。正月とは違う意味での「1年の区切り」のこの月に、本学の学部卒業生、大学院修了生が一堂に会した学位記授与式を挙げていただけますこと、大変嬉しく思います。

ご卒業、ご修了、おめでとうございます。心から、お祝い申し上げます。

卒業生、修了生のご家族、関係の皆様には、別室で、この会場の様子をご覧いただいております。保護者の皆様には、お子様のご卒業、ご修了をお慶び申し上げますとともに、これまで本学に賜りましたご支援に対しまして、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

また、ご来賓として、愛媛県の菅副知事、愛媛大学校友会の高橋会長、愛媛大学経営協議会の委員の方々にご臨席いただいております。厚く、御礼申し上げます。

この佳き日にあたり、ただいま、1754名の学部卒業生に、また、457名の大学院修了生に、それぞれの学位記を授与させていただきました。学部卒業生の多くは、実社会へと羽ばたかれることと思いますが、本学で修得した汎用的能力や専門的知識・技術を活かし、それぞれの進路において大いに力を発揮してくれることを願っています。大学院修了生は、それぞれの学術領域で、真理の解明に繋がる基礎的研究や、社会実装にも繋がる応用的研究を進められてきたと思いますが、今後は、研究者、技術者、専門家として活躍いただくことを願っています。

さて、愛媛大学は、本年度、大学として期待されている機能を果たす「全学機構」を、再編しました。再編のポイントはいくつかありますが、その中で私がもっとも期待しているのは、新たに設置した「未来価値創造機構」です。

この機構は、大学が社会における「知」を扱う組織であることに鑑み、中期的未来における「新たな価値」を社会に先行して議論、創造し、その価値

観を社会に発出することを、第一義的目的としています。

近年、気象災害が激甚化し、また、頻度も高くなっていることからわかるように、地球温暖化は、引き返せない限界に近づいています。

私たち人類は、「世界各地から輸入した食材を使った贅沢な料理、自動車や飛行機を使った長距離の旅行、テレビやゲームなどの娯楽」などによって、豊かな生活を送れるようになっていきます。

しかし、その物質に溢れた豊かな生活を実現するために、私たち人類は、森林を伐採して土地を開拓し、石油や鉱物などの資源を消費し、環境を汚染し、結果として、地球に大きな負荷を掛けています。

カーボンニュートラルなどを強力に進める必要がありますが、基本的には、「世界各地で生産される美味しいものを食べること。暖冷房の効いた快適な生活を送ること。」に「幸福」を感じる価値観から抜けだし、私たちの価値観を全面的に転換する必要があります。

これからは、「遠くの場所から物資やエネルギー資源を運び、消費する」ということはできるだけ避け、地球への負荷を小さくする必要があります。

しかし、このような考え方だけでは単に「貧しさ」を感じることになり、人類のwell-beingには繋がりません。

例えば、「自分が何かをする」「自分が何かを作る」「自分が誰かと係わる」など、「自分が主体的に行ったこと」によって幸福を感じるような、新たな価値観が必要です。皆さんもそうであるように、人類は、自分の行為によって仲間が嬉しそうにしている状態に、幸福を感じます。このことが、新たな価値観のヒントになるはずです。

また、少し私見になりますが、わが国では、消費することや消費者が、強すぎると思います。

物は、誰かが生産し、どこかに運び、そこで誰かに消費されます。このうち、現在のわが国では、消費のプロセスが尊重されすぎており、物を作るプロセスが軽視されていると思います。無論、経済学的には、生産も、消費も、両方とも必要で重要なのだとは思いますが、「物を生み出す」生産を、もっと尊いものとして考える必要があると思います。

わが国のデフレの時に、「価格破壊」という言葉がもて囃され、牛井など

の値段が安くなった時期がありました。結果として、価格破壊は、「私たちの労働価値の破壊」に繋がり、長い間、低賃金のままになっていました。

付加価値という言葉があるように、「物や行為に、新たな価値を追加すること」は、大変重要なことと考えます。今日ここにいる卒業生は、4年前は高校卒業生でした。皆さんは、この4年間で知性と能力を持った人間として成長されました。要するに、高校卒業生に価値が付加され、今日の大学卒業生になっています。愛媛大学も、皆さんに価値を付加することに少しは貢献できたはずですよ。

少し視点を変えますが、人口減少によって社会が縮小していく中でも、やはり、少なくとも現在の生活レベルは維持したいはずですよ。そのためには、言い古されたことですが、「労働生産性」を向上させるしかありません。特に、わが国は、労働生産性が低く、1人あたりのGDPは世界で32位です。労働生産性を上げるためには、やはり、AI、ロボットなどの先端技術をフルに活用することです。

「新たな価値観を考える」ことは大変重要なことと思いますが、それだけでは、「少し我慢しましょう」といったような「私たちの心の持ちよう」だけに関する議論に陥ってしまう可能性もあります。

そのような方向の議論に陥ることなく、前向きに議論し、新たな価値観を考察すると同時に、新たな技術を活用した社会システム、実用システムなども考察、構築する必要があります。

これから、大学も大きく変わります。わが国の18歳人口は、2035年から激減します。このことにも対応するため、文部科学省の中央教育審議会からこの2月に、「我が国の『知の総和』向上の未来像～高等教育システムの再構築～」という答申が出され、また、国立大学協会でも「わが国の将来を担う国立大学の新たな将来像」が取りまとめられています。両報告書は、ほぼ同じ内容が書かれています。

わが国の人口減少に対しては、わが国の「知の総和」を増大させることが必要であると明記されています。知の総和は、「人×知的レベル」と定義されており、今後、わが国で人口が減る以上、「ひとり1人の知的レベルを上げること」が、世界と競っていくためにも、不可欠とされています。具体的

には、より多くの方が大学院まで進学するようになること、社会で活躍している人にも大学院に入学してもらい、修了後は博士号を持った社会人としてより高度な仕事をしてもらうことです。ご存じのように、わが国の人口当たりの博士号取得者は、先進国の中ではかなり低水準にあり、年間博士号取得者を現在の3倍である3万人にすることが期待されています。

国立大学については、外国人留学生を、全学生の3割まで増やすことも提言されています。リカレント教育、単位制履修証明プログラムも、充実を求められています。また、地方国立大学は、地方創生の観点からも、地方に生まれた人への高等教育へのアクセスの観点からも、各県に1大学必要なことは認識されています。

わが国には、産業のイノベーション、地方創生、そして、インフラの維持など、解決困難な課題が山積しています。インフラの維持について少し言及しますが、インフラの維持に掛かる予算を削減するためにも、一刻も早く私たちの住む空間をスモール&スマートシティ化する必要があります。そのためには、好きなところに住めるという国民の権利をある程度制限する必要があるかも知れません。

今後のわが国は、人口が減少する中で、多くの課題を解決しなければなりません。価値観の転換も必要ですから、皆さん方が活躍する「令和」は、昭和や平成の延長線上にはなく、むしろ、昭和や平成とは「連続しない」時代になるべきと認識する必要があると思います。

「昨年、こうだったから、今年も、・・・」という考えは、自分自身や社会の退化に繋がると考えてください。自ら学び続けることによってアップデートした科学的知識を基に、自ら論理的に考え、判断し、新たな価値を生み出し、付加できるような、創造性豊かな人間に成長してください。

皆さんの多くは、いま、20歳台の前半で、これからの人生は60年以上あります。これからの人生で、転職や起業をする人も、また、人生に悩み、迷う人もいると思います。その時は、再度「学ぶ」ために、愛媛大学に来てください。そして、「常に自分自身をアップデートし、自分の考えや意見を明確に言える人」になっていただきたいと思います。

最後に、皆さんが、愛媛大学の卒業生、修了生としての誇りを持ち、これ

からの変化、変容が大きい社会の中で、豊かな創造性を発揮し、活躍されることを心から祈念し、私からの式辞といたします。

本日は、ご卒業、ご修了、おめでとうございます。